

令和5年度 学校評価（自己評価）

0. はじめに

ここ数年のコロナ禍の中、学校評価の対象として、保健衛生に関することを多く取り上げてきたが、本年度は、7年ぶりに、安松幼稚園の歌唱指導にテーマを絞り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）を行うこととした。それは、令和6年3月8日に泉の森ホールで実施した『安松幼稚園創立75周年記念コンサート』を開催したことにも影響されている。

まずは、当園の全般的な歌唱指導に関する検証・評価を行った後、令和6年3月8日に実施した『安松幼稚園創立75周年記念コンサート』に焦点を当てて、検証・評価を行いたい。

●以下、目標設定（P） 実行（D） 評価（C） A(改善) の各要素について、学校評価を行う。

I. 目標設定（P）……先生の歌唱の領域における指導力の向上に尽きる

当園における教育の柱は、人間の人としての芯を育てることにあるが、次の2点にまとめられる。

①美的感受性・美的情緒の育成

美的感受性・美的情緒の育成とは、言い換えると、物事に感動する心を育てたいということである。具体的には、

- ・野に咲く一輪のスマイルを見て美しいと感じる心
- ・きれいな詩歌を聴けば、自然と涙がこぼれるような情感
- ・人と人との助け合いや触れ合い、自然、人の生き方、芸術、俳句や詩に、感動し心震わせ涙する心

などの育成である。

幼稚園において、こういう美的感受性を育む教材は多くありますが、その中でも歌唱は、多くの園児たちの感性・情緒を育てる分野であることは明らかでしょう。

②困難や障害、与えられた負荷を乗り越えて、情熱をもって最後までやり遂げる精神力の育成

芸術をはじめとして多くの領域で、守・破・離の大切さが言われている。何事でもそうであるように、歌唱の指導においても基礎練習が必要で、幼児に対してどのような基礎練習を必要と考えるかは、園のそして先生方の力量が問われるところである。

また合唱においては、指揮の先生の方を見て集中する力が必須となるが、（相手の話を聞くときは相手の顔を見て集中して話を聞くことを指導するのと同じく）、これは躰の分野とも大きく関わる。

上記の事柄を背景として、安松幼稚園における歌唱指導はどうあるべきかという観点から、歌唱指導における先生の指導力の向上を、本年度の学校評価の目標設定とした。

II. 実行（D）

●まずは、歌唱指導において、当園が目標とする発達段階に応じた学年毎の指導内容

★指導内容

年少児

- ・先生の方をしっかりと見る。
- ・1学期の間は、細かいことには関わらず、楽しみながら、自分の気持ちを大きな声で表現できるようにもっていく。
- ・表情並びに音楽的に意味のある表現を大切にしていけるが、表現においては、3歳児に可能である動作を指導する。

- 年中児**
- ・先生の方をしっかりと見る集中力
 - ・表情 表現を大切に。数種類の表現をいれていく。
 - ・音程、リズムも大切に扱う。

- 年長児**
- ・集中力の持続
 - ・表情を大切に、楽しさが基となる明るい声が、響く声につながる。
 - ・何種類もの表現を取り入れ、詩の内容に合った色調の歌声を出す指導
 - ・音程、リズム、声の強弱、情緒豊かな発声の指導など

★留意点

※先生の指導力を高めるのが全てである。

そのためには、園の先生方が歌唱指導について学ぶ機会が必要である。

一つには、園内において、先輩の先生の歌唱指導や児たちの歌声を聞く機会を多く持つ。

二つには、年に 10 回程度、元大阪教育大学附属天王寺・音楽科の諸石先生にお越し頂き、当園の先生が子供に指導する様子をご覧頂き、その後に反省会をもち、かなり強烈な指導を受け、それぞれの考えを率直に述べ合っている。

※そういう 実践→見学→勉強会→実践→見学→勉強会→ …… を通じ、歌唱の本質、歌唱指導の要諦を学んで行く過程において、先生の指導力が高められていった。

※何事においても、明白な目標があれば、それに向けての取り組み・実行がされやすい。

当園では、6 月に園内ミニ音楽会、2 月にはお楽しみ音楽会 そして年により違いがあるが、令和 5 年度では 3 月に、泉の森ホールにおいて、創立 75 周年記念コンサート ～伝えよう 誇り高き日本の文化～ が開催される (た)。

さらには、誕生日会、授業参観、そして日常の授業において、児達は、数多くの歌唱の経験をもち、物事を成し遂げたという喜び、達成感を得ることを重視している。

III. 評価 (C)

●上で述べたように、日常の園内での学びにおいても、また歌唱の指導の専門家である先生がお越しの勉強会においても、**率直な意見交流が、当園の先生方の学びの中心**にある。それは、当園では、色々な領域において年間 20 回を超える研究授業がなされており、物事を学ぶには率直な意見交換がなければ、研究授業や公開保育も時間の無駄であるという風が園内に満ち満ちている。

それ故、新任であっても初年度から、自由に自分の思いや考えを話すことに臆することはなく、この空気があってこそ、先生方の信頼関係の上に立った学びが有効となると、高く自己評価したい。

●園児の入園後、3 年 (満 3 歳児など、個々により多少の差異がある) に渡る歌唱指導の集大成として、令和 5 年度は、3 月 8 日に『創立 75 周年記念コンサート』を開催したのであるが、多くの参観者の涙を誘い、感動の渦に巻き込んだ。参観に来られた府・私学課の方や保護者の感想を、評価の傍証として、学校関係者評価に提出する。

●コンサートの成果からも、日常の学びや活動からも、**各先生方においては、十分に歌唱指導の力量を高めることが出来たと自己評価**するが、客観性を持たせるために、次の学校関係者評価には、この自己評価と共に、専門家の寄稿文、並びに 府私学課の方からの また保護者からのお便りを数点提出する予定である。

学校は教師力で決まる

教師力とは、先生の熱意と指導力

それが安松幼稚園の誇りです

と高く自己評価するものである。

IV. 改善 (A)

安松幼稚園の歌唱指導は、現状に甘んずることなく、また単一の思考に陥ることなく、色々な先生方の率直な意見交換や学びが、常に新しい知識を吸収し、**事態の改善に直結している**との自己評価に至った。

歌唱指導において、次のような気付きがあり、指導が大いに改善されたと評価できる。

安松幼稚園の音楽（歌唱）指導の基本理念

●表情

- ・表情は音楽の基本。表情のない歌は音楽にあらず。
常に表情を良くし、声を柔らかくする努力をすること。

●表現（動作）

- ・自然な動作を入れることによって歌いやすくなり、楽に歌えて響きがぴたっと合う。
- ・体全体が脱力し、喉も柔らかくなり、伸びる声になる。

●アタック & なめらか（柔らかく）を バランス良く

- ・アタックから、押すことにより、しっかりした声が出る。
- ・声がきつくなりすぎると、なめらかに変える。
- ・声がカスカスとなると、アタックに変える。

●ストップモーション

- ・歌詞の滑舌をハッキリさせる
- ・表情をつける練習
- ・声を休める効果あり
- ・瞬間ストップする事により、瞬時に個々のすべての子供の表情を見回す。
- ・3歳児等、指導の中に笑いを促し、気分転換の効果もあり。

●部分練習が基本であり、通しはそれほど必要なし。部分練習と つなぎの練習で 通しは完成する

- ・1番 a,b,c,d 2番 a,b,c,d 3番 a,b,c,d の場合の部分練習では、
1番 b 2番 b 3番 b のように、串刺しで練習すると能率がよい。
- ・例えばbとcのつなぎは、bの最後のフレーズとcの最初のフレーズをつなぐだけであり、
b、cすべてを歌う必要はない。

留意事項

☆指導以前に、先生が歌いこんで、曲想を持っていること

★目の前の子供の状態がきちっとこちらを向いてそろっているかを見極め、一点集中させなければ、意味なし…… 普段の躰そのものとも言える ← すべての授業で優先されるべき最重要事項

★子供の声を聞き分けることが前提

★小言ばかりにならず、できた子供を褒めるなりして、楽しく変化をもたらし、やる気を引き出すこと。そのためにも、ストップモーションのバリエーションを多くもつこと

★全体指導、グループ指導、個人指導を適宜織り交ぜること

いずれにしても、目の前の状況の見落とし（眼・耳）のないように！！

★無駄な言葉を無くして、一言で指示をする習慣をつける。

注意は一言でよい。指導にもリズムとタイミングが必要。

いつも同じリズムで行なうと、言葉なしでも子供はついてくる。言葉は不必要となる。

上記のように、先生方の歌唱に関する指導力は大きく高められたと、PDCA の各要素において自己評価するところであり、この自己評価を、若干の資料を添えて、学校関係者評価の会に提出する所存である。

令和5年度 学校評価（学校関係者評価）

I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された令和5年度の学校評価（自己評価）は、「歌唱指導」がテーマでした。

①安松幼稚園の歌唱指導において、教師力が向上するような環境があるかどうか

②入園後の歌唱の集大成ともいえる3月8日の泉の森コンサートでの歌唱は、どのような内容・レベルであったか

に主眼を置いて、学校関係者で評価を行いました。

学校関係者委員会としての下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。

(1) 歌唱指導における先生の指導力の向上 をテーマ（P 目標設定）とされたことについて

自己評価の目標設定にありますように、幼稚園児に対して美的感受性を育むことの重要性和、そのための有効な教材として、歌唱指導があるというご指摘は、もったもなことでと評価致します。

(2) 指導力の向上のために、具体的にどのような事をされているか（D 実行）について

●園内において、先生方の研修・学びが、日常どのような形態で行われているかが、一番大切なこととされます。安松幼稚園においては、年20回の研究授業にすべての先生が参加されています。それらの研究授業の指導案を拝見しましたが、その領域も多岐にわたっています。当然、歌唱指導の研究授業も数多くあります。これらが先生方の力量アップにつながっていると思われます。

●日常において、先輩の先生方の素晴らしい授業を、絶え間なく参観できる空気があります。先輩の先生方の授業の参観により、後輩の先生方が感動しやる気を高め研鑽に励むことが力量の向上につながっていると判断致しました。このように憧れの先生がいて、日常的に参観できるという園の空気感がとても重要であると思ひ、高く評価するものです。

●園内での交流・学びだけではなく、外部の日本でも歌唱指導で高く評価されている諸石先生の厳しい指導を受け止めて、実践・学びのサイクルをされていることは、私達幼稚園に出向きました際、しばしば目にしており、遅くまで勉強されている先生方のお姿を、高く評価しておりました。

以上より、自己評価にあります通り、具体的に実行されていることを評価致します。

(3) 実際の私達保護者の（C 評価）として、次の数点をあげたく思います。（園から提示下さいました）

先生方の歌唱教育の指導力が非常に高められているという自己評価を、全面的に肯定致します。

その論拠として、次の4点を考慮しました。

●園内における研修体制

●園に吹く風（園全体がどのような雰囲気・考え方で運営されているかが、とっても重要と思われます。

それは先生間の自由闊達な雰囲気が保証されることによって、臆せず自由な討論がなされ、それらが先生のやる気を引き出し、向上心につながっていくと考えられるからです。）

●先生方の指導力の結果としての、実際の子供の歌声

●色々な方から寄せられた感想文を、傍証として用いる。

●傍証の一つ目として、今年の3月8日のコンサートに参観された府・私学課 加藤様のお便りを、掲げたく存じます。

●泉の森ホールでのコンサートにお越し頂いた府私学課の方から、その日のうちに感想を頂きました

安松幼稚園

理事長 安井様

令和6年3月8日

いつもお世話になっております。大阪府私学課の加藤です。

本日（3月8日）の創立75周年記念コンサートにお招きいただき、ありがとうございました。

以前から貴園におかれましては、幼稚園教育の推進に尽力いただいておりますが、本日のコンサートを見つけて改めて認識しています。

最後のサプライズを見ていると、安井先生は先生方からの信頼が非常に厚いと思いました。

私見ではありますが、理事長・園長といった園の運営を代表する方と教職員の皆様との信頼関係が構築されている幼稚園等は、その園児・保護者も元気で笑顔が絶えない印象を受けることが、当方が実施する補助金等実地調査などで感じています。

本日のコンサートではそのことがよく表れており、また、保護者の皆様や近隣の小学校との信頼関係も構築されていると感じています。

我々は常に、大阪府をはじめとする我が国の幼稚園教育を支えていただいているのは、理事長先生をはじめ、貴園の教職員の皆様であると思っています。

改めて御礼申し上げます。

引き続き、本府の私学行政の推進に御協力くださいますようお願い申し上げます。

大阪府教育庁私学課

幼稚園振興グループ 加藤 貴志

●傍証の二つ目として、お母さん お父さんからのお便りを3点掲げます。（【 】の題名は園で記載しました）

※泉の森ホールでのコンサート 並びに 園内での授業参観における 二つの歌唱についての感想を記されたお手紙を 卒園式前日に頂きました

令和6年3月14日

【安松幼稚園のすごさを感じた瞬間

創立75周年記念コンサートでは何度も鳥肌がたち

園ホールで「誕生日」という歌を聴いた時の衝撃も忘れられません

3年間 熱い本気の指導をして下さり 感謝の気持ちでいっぱい】

年長児のあるお父さんから

拝啓

旅立ちの春を迎え、日増しに温かさを感じています。

安松幼稚園の先生方には、3年間、熱い本気の指導をして下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。

先日の創立75周年記念コンサートでは、6歳とは思えない素晴らしい歌声に、何度も鳥肌がたちました。

また昨年度の園のホールで「誕生日」という歌を聴いた時の衝撃が忘れられません。

少し気持ちが沈んでいた私に、園児の溢れる表情・歌声に、涙が止まりませんでした。家に帰り歌詞を確認すると、また涙があふれてきました。

安松幼稚園のすごさを感じた瞬間でした。

親子共々、成長させて頂いた3年間、ありがとうございました。

先生方、お身体をお大事になさって下さいませ。

敬具

令和六年三月十四日

年長児の父より

※泉の森ホールでのコンサート についての感想を記されたお手紙を 卒園時に頂きました

令和6年3月15日

【創立75周年記念・泉の森コンサートには 大変感動
年長さんの歌声がとても素晴らしく 全体での力強い歌声
しっかりと抑揚もついて 心に響く歌声で 涙があふれ】

年長児のあるお母さんから

先生方へ

いつもお世話になり、ありがとうございます。

先日の創立75周年記念・泉の森コンサートには、大変感動しました。

年長さんの歌声が、とても素晴らしかったです。

年長さん全体での力強い歌声、しっかりと抑揚もついて心に響く歌声で涙があふれてきました。

最初、曲目を見た時に、こんなにたくさんの曲を歌えるのかな？と心配したのですが、さすが安松幼稚園の年長さんだなあと思いました。

どの曲もしっかりと心を込めて歌っているのが感じられました。

先生方の熱意ある素晴らしい指導のお陰で、息子も堂々と立派に歌いきっている姿を見ることが出来ました。本当にありがとうございます。

また女の子のジブリの歌は、可愛らしく繊細な歌声で巻き込まれましたし、女の子チームの演舞『光の種』も素晴らしかったです。

先生方は準備など色々大変だったことと思いますが、今回のコンサートを開催して頂き本当にありがとうございました。

また卒園までもう少しになり寂しい思いですが、運動会に文化発表会に、作品展にマラソンにと、息子は力を出し切って頑張れたのも先生方のお陰です。

ご指導して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

※泉の森ホールでのコンサート についての感想を記されたお手紙を コンサートの翌日に頂きました

令和6年3月9日

【芸術は模倣から始まる

日本一の先生方が 歌詞の意味の理解を 深化しながら作り上げた表現方法を

子供達が真似てこそ こんなに心揺さぶられる歌唱が生まれるんだ と理解でき】

年長児のあるお母さんから

安松幼稚園 すべての先生方へ

昨日の創立75周年記念コンサート (in 泉の森ホール) で、素晴らしい時間を過ごすことができ、大変感謝しています。…… 一部省略 ……

コンサート前に娘から、「お母さん、どの曲で一番泣くと思う？」と質問された時、「どんなときも やなあ。」と、応えていました。長男が入園して最初の授業参観の時だったと思いますが、当時の年長さんが歌ってくれた曲で、「子どもの歌って、こんなに心揺さぶられるものなのか…」と、歌詞と子どもたちの歌声が胸に染みて、号泣するのを何とか耐えたことがあるためです。(←この時は、幼稚園児の歌でこんなに泣いていいの？ という気持ちがあったのだと思います…)

そしてコンサート当日の『どんなときも』。予想通り、号泣でしたが、歌唱表現が更新されていたことに、心奪われました。

『どんなときも どんなときも』のサビの部分で、最初のどんなときも は力強く、次のどんなときも は、優しさ溢れる歌唱表現だったのです。

諸石先生の寄稿文にもありましたが、先生方が歌詞の意味の理解を深化しながら作り上げた表現方法を子どもたちが真似てこそ、こんなに心揺さぶられる歌唱が生まれるんだと、たった今、手紙を書きながら理解しました！

こんなこと安松幼稚園の先生方しか出来ません。

『芸術は模倣から始まる』とお聞きしますが、日本一の先生方を真似て得たものは、子供達の一生の宝です！ ありがとうございます。(理事長注：数年前に、歌唱のプロ中のプロであるミュージックステーションのディレクターから番組への出演依頼があったのも、当園の先生方の歌唱指導が評価されてのことだと思えます)

卒園式まで一週間を切りました。

コンサートの練習の中での、卒園式の練習や準備は大変だったと思います。

先生方も、どうぞご自愛ください。

令和六年三月九日

年長児の母より

●傍証の三つ目として、諸石先生の寄稿文を掲載します。

安松幼稚園 創立 75 周年記念コンサート (於 泉の森ホール) に向けて 諸石孝文

泉の森コンサートの開催を機縁とし、安松幼稚園の歌唱指導について、一つ目は考え方などの概論を、二つ目はコンサートの個々の曲について具体的に記してみました。

●まずは、大きな考え方から

今年の泉の森ホールコンサートの曲目には、名曲、大曲、難曲がズラリと並んでいます。しかし、子供たちにとって、そんな大人の見方は、どうでもよいくらいに、楽しそうに曲を歌っています。

時には、信じられないくらい軽々と。

子供に譜面で教えるわけでもないし、先生が歌ってそれを真似させるだけです。大人が難しいと思えば、どんな曲でも歌えるはず。

そして、曲想とか音楽的なことは、表情、表現(動作)を真似させることで教えることができるので、歌詞の内容が難しいから、この曲は子供には無理、ましてや5歳の幼稚園児に歌えるはずがないとかいうのは、大人の勝手な考え方です。

注1 真似ることの意味

教育の原点は、よい手本の真似をさせることです。教室や運動場での先生の長々とした説明は意味が無く、子供のやる気を失ってしまいます。よい手本を見せて、さっと実技に入る。これが理想です。

体育・書道・歌唱・詩の朗唱・楽器演奏以外にも、歌舞伎・狂言・落語などの古典芸能でも、全ては先生の真似から始まり、一つの基本・型を身につけていきます。

学ぶとは真似るであり、守・破・離の世界なのです。

問題は、どのような表現をするかということだけですが、それは、先生の仕事です。子供たちには、忠実に表情、表現を真似することを求めるだけです。

そして不思議なことに、歌詞の深い本当の意味がわからなくても、**良い表情、表現を身につけて歌える子供は、まるで全て理解しているかのように歌うことができるようになっていく**

ものなのです。これはまるで、モーツァルトのピアノ曲の演奏は、プロの演奏家が弾くよりも子供が弾く方が時には自然に聞こえる、とよく言われることと似ているような気がするのです。つまり、モーツァルトのように、自然な流れを持つ名曲の場合、**変に解釈された演奏よりも、子供の演奏の方が素直で自然に聞こえる**ということです。園児の歌でも同じことが言えると思うのです。

子供たちは、大人では考えられないぐらいの速さで歌詞を覚えてしまいますし、表現の会得も速い。問題はそれを全員でピッタリ合わせることができるかということです。もちろん、歌いながら。

これが、合唱の出来映えを左右するポイントとなります。その根底には普段からのしつけ教育があつて、それがあつて初めてできることだということとは言うまでもありません。

注2 情熱ある先生の手本が全て

注1に記しましたように、教育とはよい手本の真似から始まります。

先生が本気になって子供に向き合えば、先生の全力の姿を前に、子供が全力出さぬわけがありません。

教育の質とは、先生の質です。その先生がよい手本を示すことができるかどうかにかかっています。

注3 しつけ教育が全ての始まり

しつけ教育によって集中力・持続力が養われ、その上に美的情緒が花咲くのです。

●コンサートの曲 並びに より具体的な指導について

メインは、年長児全員94人による合唱です。

最初は子供たちの大好きな「**ぼよよん行進曲**」から始まります。「ぼよよ〜ん」という言葉の持つ感覚を音楽にしたような**軽快なリズムに乗って今にも歩き出しそう**です。

「**怪獣のバラード**」は中学1年生ぐらいでよく歌われる曲で、安松幼稚園でも昔は大曲として扱っていましたが、今はもう普通に歌える曲目の中に入っています。

「**どんなときも**」は、みんなによく知られている曲ですが、その歌詞の意味をもう一度見直してみても如何でしょうか。子供たちは**明るい曲調のリズムに乗って実に楽しそうに歌っています**が、その意味を深く知った大人たちは泣けてくるかもしれません。

「**手紙**」は2008年のNHK全国学校音楽コンクール中学校の部の課題曲で、「**アイノカタチ**」もミーシャが歌う大曲（難曲）ですが、どちらも気持ちをどれだけ聞いている人に伝えられるかということが大切な曲です。その曲の『**心を歌う**』ことができるよう取り組んでいます。

女声合唱のジブリメドレーでは、天使のような歌声で妖精たちが歌っているかのようなジブリの世界に引き込まれていくことでしょう。こういう曲は、大人の美しい声よりも子供たちの清らかな声の方がよく似合うと思うのです。美しく切ないメロディーに子供たちが挑戦します。

幼稚園では二部合唱というのも、ふつうはあまり行われていないのですが、掛け合いのような感じで何箇所か出てきますので、楽しみにしてお聴きください。

【具体的な指導】

裏声の使い方も工夫しています。多くの他の幼稚園では、裏声の指導は行っていませんが、最高音がG(ソ)にまで達して、**裏声を駆使して歌っています**。他の曲でも、高音のF(ファ)ぐらいは、普通に出しています。男子も裏声を使って歌う部分が多いのですが張りのある裏声を出して、女子の美しい声とミックスした時の声はとても響きがよくなります。

他の幼稚園では考えられないことですが、安松幼稚園では、裏声の子と地声の子とをグループに分け、それをミックスさせて高音を美しく聴かせる工夫をしています。曲によって、グループの編成も変わります。

もちろん、その為の先生方のご苦労は並大抵のものではなかったと思いますが、そういう苦労を重ねながら、美しいものを創り上げてゆくという努力を、園児と共に日々行っています。

注4 チームでよい手本を示す

安松幼稚園はチームで指導しています。歌唱においては、表情・表現の指導（手本）が最も重要ですが、それ以外に、歌声、ピアノも大切な要素です。

●最後に

忘れないでおいて頂きたいことは、この演奏は、合唱団やクラブや課外活動での選ばれたメンバーによるグループ等の演奏ではなく、普通のクラスの子供全員による演奏だということです。

歌の得意な子もそうでない子も含めて、音楽が専門ではない先生方が、安松幼稚園独自の方法で合唱に取り組んできました。

しかも、放課後の時間に特別に練習したわけではなく、平素の授業の中の限られた練習時間で、運動や制作などと並行しながら仕上げてきたものです。

暖かくはなってきましたが、最終的には風邪やインフルエンザとの闘いになります。子供たちの体と喉を守ることも含めて、保護者の方々とも、共に取り組んでいます。

いろいろな面で、新しい挑戦をしている安松幼稚園ですが、このコンサートに向けての取り組みの一端を紹介しました。

是非、児童合唱団の指揮者の方や、小学校の現場の先生方等に見て聴いて頂きたいと思っています。

(4) A改善

(文責 諸石孝文)

今年3月の創立75周年記念コンサートは、「幼稚園児ではないでしょう。プロの集団でしょう！！」と評価したくなるほどの進化を遂げていました。

あるお母さんの感想にも、表現に関する進化が記されていました。

これは、自己評価のV改善(A)にありますように、歌唱指導において、10年前とは異なる改善が多く取り入れられていると確信し、自己評価を強く肯定するものです。

III. 最後に

色々と自己評価を検証してまいりましたが、自己評価と共に、私達が日常園で見聞きしていること、府・私学課の方からのお便り、お母さん・お父さんからのお便り、諸石先生の寄稿文、それと共に実際の子供達自身の歌声を参考にしながら議論を進めてまいりました。

また数年前には、『タモリのミュージックステーション』からの出演依頼があり、東京から取材に来られ、泉の森ホールコンサートの模様も含め放映されました。

これらすべてを総合して、ここに学校関係者評価として、自己評価が適切であるとみとめます。